

やすき通信

訪問看護ステーション穩

2020年 夏号



～口から食べて飲んで、話し続けられるように～



50代のAさんは肺がんと診断され、状態は進行していますが体力の面から治療が困難という状況です。現在はご本人の希望によりご自宅で生活されています。原因不明の発熱を繰り返し、強い倦怠感により薬の服用すらきつく、出来ていないことが多くあります。

1日の食事は宅配弁当や高カロリーゼリーなどの栄養補助食品、好きなお菓子をごく少量ですが、もともとは食べる事が好きで「(経口から)食べ続けられるようにしていきたい」とリハビリへは意欲的です。また、入院中の検査により声帯麻痺があることも分かりました。その為、声が出にくく、かすれた声や小さな声になってしまいます。1対1の面と向かった状況での会話はなんとか可能ですが、賑やかな環境下や電話でのやり取りではスムーズさに欠けることがあります。実際に電話の相手から内容が分からない為、内容をメールで送って欲しいと依頼されたこともあったようです。「出来るだけ声をはっきり出したい」との希望に添えるようにリハビリを行っています。

今後、話すこと自体がきつくなり、現在よりも伝わりにくい場面が多くなると予想されます。少しでもご本人が楽に伝えられ、聞き手にも伝わりやすいような方法を検討していけたらと思っています。ご自宅で出来るだけ長くAさんが好きなものを食べて飲んで過ごし、ご家族や知人と楽しく会話出来るように支援していきたいと思っています。



言語聴覚士：松下 仁美

患者様のお薬箱 part2

多発性硬化症による認知症状、記憶障害で内服管理が困難になったUさん。
飲み忘れや重複服用などが目立つようになったため、既製品のおくすりカレンダーや1日管理のボードを作成し、導入してみました。しかし、本人の受け入れが悪く、カレンダーやボードは使用されずに片付けてしまう始末。
記憶障害が進行している自覚はありながらも、自分で管理できるはずという気持ちが伺えました。
記憶障害を補うために本人はマメに裏紙にメモをしていました。馴染みのある紙ベースの管理シートであれば受け入れてくれるのではないかと思い、紙で1日管理シートを作成してみました。本人の受け入れはよく、内服薬もきちんと服用できるようになりました。
本人の自尊心を傷つけないようにしながら、最良の方法を見つける。そのためには本人の性格、習慣、生活環境などをアセスメントしていく必要がありますね。



訪問看護師スタッフ一同

**マスク熱中症に注意！
まめに水分補給を！**



管理者こだまの一言

梅雨が明け、暑い夏となってきました。こまめに水分補給を行い、熱中症予防に心掛けましょう。また、コロナウイルスもまだまだ油断はできません。厳しい状況が続きますが、ウイルスに負けないように感染対策を徹底して参ります。7月末より穏に新しく理学療法士さんが仲間入りしました。次号で紹介させていただきますね。

児玉 恵美子